

論文審査の要旨

報告番号	修第 323 号	氏名	大戸 恵介
論文審査担当者	主査 伊藤 純治 副査 富田 真佐子 副査 佐藤 満		
(論文審査の要旨)			
<p>近年、多職種が連携したチーム診療が注目されている中、呼吸ケアサポートチーム(Respiratory care support team: RST)が担うべき役割は多岐にわたる。本研究は、神経筋難病を対象としてRSTが介入した呼吸ケアが患者の予後に与える影響について検討した。</p> <p>対象は2016年4月～2018年3月の期間に入院していた神経筋難病患者31名（RST介入群13名、非介入群18名）である。RST介入群と非介入群の生存率を比較した。一方、肺炎が治癒した患者の割合を「改善率」とし、治癒後、再発した患者の割合を「再発率」と定義した。これらが生存率に影響を与える因子となるかを分析した。</p> <p>生存率はRST介入群69.2%、非介入群27.8%であり、RST介入群の生存率が有意に高かった($p<0.05$)。加えて、非介入群における肺炎改善率が患者予後の影響因子として抽出された。</p> <p>神経筋難病が肺炎を合併した際の RST による呼吸ケアの介入は、肺炎の改善率を高め、再発予防への効果が期待でき、患者の健康関連生活の質 (health related quality of life: HRQOL) 向上と予後改善に寄与する可能性があると考えられた。</p> <p>上記の結果は、神経筋難病患者に対して RST 介入をおこなうことより生存率が上昇し、肺炎改善率を上げ再発防止への効果が期待できることを明確に示している。これらの知見は神経筋難病患者に対する呼吸ケアサポートチーム介入の有用性を示しており、学術上価値がある論文であることを確認した。</p> <p>また、本論文は昭和大学大学院学位論文（修士）審査基準をすべて満たしているものである。</p> <p>以上の審査の結果、本論文は修士（保健医療学）の学位授与に値すると判定した。</p>			